
魔法少女リリカルなのは～自由気ままな転生者～

ユキノブ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは〜自由気ままな転生者〜

【Nコード】

N2116P

【作者名】

ユキノブ

【あらすじ】

「あれれ？なにこのテンプレみたいな空間？」後ろを見ると土下座をしている爺さん。けれどこの爺さんが原因で『リリカルなのは』の世界にいくことになった！！

そして転生した主人公はどんな物語を創るのか。

初投稿、初執筆です。

プロローグ（前書き）

はじめまして。

初投稿、初小説です。

これは最強設定や原作ブレイクがお嫌いな方は遠慮してもらいたいです。

それでも読んでいただけるのなら幸いです。

ブログ

くブログく

く楓sideく

「（ん）何か頭がおもい気分が・・・するようなきがする」

そんなことを思いながら身体を起してみると。

「あれれ？なにこのテンプレみたいな空間？」

そんなことを言いながら、左右上下をみて、なんと！自分の後ろを見てみると

日本人もビックリするような綺麗な土下座をしている爺さんがい

るではないか。

ってか…………なぜに土下座を？

ん…………しばらく考えても分からないし、

気になるので、おそろおそろ爺さんに話しかけることにしてみた。

「あの…なぜに土下座しているんですか…？」

「それが…自分は神なんじゃが…………君をこちらのミスで死なしてしまったのじゃ…！」

ほんととおおおおおおに申し訳ない…！」

「……………はあーマジかい……………」

まあ…爺さんの話を聞きやっぱり自分はテンプレみたいに死んでしまったらしい。

それにしても、これからどうしようかなあ…なんて考えていると。

「あの…なにも言わんのかのお…？」

「んあ？今は考え中なんですけど、なにか文句を言っても「いや！結構じゃ…！」」

「じゃ…ちよつと静かにしてよ」

「…………なんだかテンションが低いの…おぬし？」

「まあ、毎日が同じようなことばかりだったから暇してたんだよね
あゝ、それにただ一つの楽しみが
お気に入りだった『リリカルなのは、A's、Strikers』
を観てることだけだったな」

なんてことを、想いふけていると。

「それはアニメの『魔法少女リリカルなのは』かの？」

「え！それぞれ！！知ってるの！？」

「まあゝ、こちらの神などが住んでいるところには娯楽が少なく
のおだからおぬしなどの
世界のアニメなど他もろもろを見ていたり、こちら側に持って来
たりしているんじゃないよ」

「へえゝ・・・こつちとあまり変^かわらないんだあ」

神とかもなかなか暇してるんだな、とか思っていると。
いきなり爺さんが。

「お、いいことを考えたのじゃ!! おぬし『リリカルなのは』の世界に転生してみんか!？」

「え!あの『リリカルなのは』の世界に行けるの!？」

「そうじゃ!それに今なら何でも叶えてやれるわい!！」

「ホント!? やったああああ!！」

「その反応じゃと、行くのかの?」

「あたりまえじゃん!！」

「それじゃさっそくこの紙に叶えて欲しいことを書くんじゃ」

つと、いいながら渡された紙とシャーペン、……つて!?!
まだコから出したんだ?……

まああれでも神だし。気にすることないか、それならさっそく書きますか。

……書き込み中……

よっしゃ、書けた!ーんーこんな感じかな……爺さんに渡すか。
(能力やデバイスなどは次で説明します)

「こんな感じになったけど、できそう?」

「……全然問題なしじゃい。それとこの紙に書かれていないが容姿などは変えるかの？」

「ん〜、それは爺さんに頼むことにする！」

「ふむ、任されたわ」

「あ、それと能力やら魔法などの把握したいから年齢5歳からお願いしてもいいかな？」

「それも大丈夫じゃ」

あれでもけっこういろいろと書いたんだが……大丈夫とは。まあ、これで原作介入して主人公達が少しでも幸せになればいいんだけどな。

おっと、そのまえに確認しておかないと。

「爺さんちよつと聞きたいんだけど、原作介入はしてもいいの？」

「そんなの全然してもよい」

「じゃ、蘇生するのとかは……あり？」

「何人ぐらいじゃ？あまり多すぎるのは流石に……マズインじゃが……」

「最低でも4人なんだけど・・・」

「ふむ、それなら7人までよしとする」

「えー！！いいの！？」

「よいよい、こちらのミスで死なしてしまったんじゃからの、それと蘇生の魔法は紙に書かれていたデバイスのほうに蘇生魔法を入れとくわい」

おーこの爺さんすごい太っ腹だなあ。

けど、それのおかげで主人公達の幸せにまた一步近づいたかな。

「よし！準備OK、そろそろ行きますか」

「行くのかの？」

「はい！第二の人生が待ってるからね」

「そうか、ほれこれも土産にもっていくのじゃ」

そんなことを言いながら、投げ渡してきたが折りたたみ式の赤色が主な色の

携帯電話だった。

「普通のケータイ??」

「そのケータイは、わしに掛けれるように電話帳に番号が入ってるからの」

「え!?! そんなケータイ貰っていいの??」

「それぐらい気にするでない……こっちが暇なぐらいじゃかな（消えるぐらいの声）」

「ん? 最後のほうなにか言った?」

「な・なんでもないわ、それより困ったことがあったらいつでも連絡してきなさい」

「そうだね、その時がきたら連絡する」

けど……困ることなんて滅多めったにならないと思うのは自分だけなのかな??

ま、いつかその時が来るかな。

「次こそ行くかねえ」

「ふむ・・・本当に悪かったの、次の世界での健闘を祈っとるわ」

「いやいや、こっちこそいろいろとありがとうございます」

「あの扉を通れば、もうあちらの世界じゃ」

爺さんがそついいながら指を向けているほうに顔を振り向けると、先ほどまで何もなかったところに

そこには、魔方阵が大きく真ん中に――《描えが》かれている扉があった。（縦3？横3？の正方形の扉）

うわゝ、さつきまで『リリカルなのは』の世界に行く実感なかったけど、この扉をみても

本当の行くんだなあって思えるなゝ。

「どうしたのじゃ？行かんのか？」

「いやゝ、なんか存在感ある扉だと思っていただけ」

「そつかの??」

普通にあると思うんだけどなあ（汗
まあゝいっかあちの世界に着ければいいし。

「ふう、じゃーね爺さん、もーミスなんかしないでねえ」

「肝に銘じとくわい」

そして扉に近づき、扉に触れるぐらいで気がついたことがあった。
だから振り向いて笑顔で。

「あ、そういえばなんだかんだで名前言ってなかったね。自分の名前は白碕楓^{しらすき かえで}」

side out

く 爺さん《神》sideく

「あ、そういえばなんだかんだで名前言ってなかったね。自分の名前は白碕楓^{しろさき かへで}」

そういつて扉を押して通っていった少年。

「ふむ、行つたか」

「ん〜、さてさて紙に書いてることを実行するかの。あ・・・容姿はわしが考えるんだつたな」

さて、どうしようこの〜。

そうなの・・・【ピロンー！】・・・そっじゃー！・・・いーいーを思いついたのじゃー！ー！

あ！それに・・・

こうして楓の書いた能力のほかに、爺さん《神》のせいでいろいろな能力も付くのであった。

} side out }

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2116p/>

魔法少女リリカルなのは～自由気ままな転生者～

2010年12月5日00時55分発行